

白井市の少子化対策の現状と展望について

面・しろい活性化計画 広沢修司

「選ばれるまちづくり」 提案

～出生数の維持と将来人口の安定に向けて～

面・しろい活性化計画 広沢修司

【背景と目的】

- ・「若い世代が定住し、安心して子どもを産み育てたい」と思える都市環境の整備が不可欠
- ・自然環境・交通利便性・災害リスクの低さなど他市と差別化できる資源を戦略的に活かすことが「選ばれるまちづくり」の核心

【白井市の特性】

▶ 自然環境

▶ 立地

▶ 都市基盤

▶ 防災性

【白井市の課題】

- ▶住宅ストックの老朽化
 - ▶若年層の転出
- ▶出生・子育て支援の実効性の確保
- ▶地域資源を活かした定住・移住の戦略
 - ▶産婦人科医療機関の不在

【提案する都市モデル】

1. 近居・近育型住環境の形成
2. 出産・育児期支援の強化
3. 自然と共生する子育て環境の創出

【成果指標（KPI）】

分野	指標名	内容
出生・定住	年間出生数／合計特殊出生率	年別動向をモニタリング
若年層動向	20代・30代転入超過数	若年層定着の可視化
住宅活用	老朽化住宅・空き家再生戸数	子育て世帯向け住宅への転用数
支援体制	産前・産後交通支援利用件数	利用者の負担軽減の指標
子育て環境	公園・緑地アクセス率（小学生以下）	500m圏内での施設利用可能性
評価体制	KPI評価の反映率	予算・計画の見直し件数等で測定

【実行と検証体制】

- ・ 各施策に紐づくKPIを定期的に「見える化」し政策の有効性を検証
- ・ PDCAサイクルの丁寧な運用により、部局横断的な再調整と施策改善を継続
- ・ 市民・外部有識者を交えた協働的マネジメント体制の構築

「政策コーディネーター」機能の制度化による 部門横断型の政策推進体制の強化について

期待される効果：

- ・ 実効的な部門調整
- ・ 施策の一貫性と継続性の確保
- ・ 職員の負担軽減と連携強化

制度設計の提案内容：

- 1、政策コーディネーターの役割明示
- 2、配置対象となる政策領域の明確化
- 3、人材確保と育成体制の整備
- 4、役割評価と運用ガイドラインの作成

プロジェクトチームと政策コーディネーター

観点	プロジェクトチーム	政策コーディネーター
目的	特定の課題に対する一時的・横断的な対応	継続的に部門を超えた政策を企画・調整・推進
性格	組織（チーム単位）	人材（個人または小人数の役割）
継続性	案件終了で解散	継続的に関与（課題横断性が前提）
機動性・柔軟性	高いが個別対応型	調整や制度設計の“横串”役として持続性が高い
調整機能の明	担当課に依存しがち	調整・統合の明確な責任と権限を持つ

調整・推進の中核



情報共有・連携の実動チーム

